

## 経営発達支援計画の概要

実施者名 (法人番号)	浅口商工会（法人番号）1260005005760 浅口市（地方公共団体コード）332160 里庄町（地方公共団体コード）334456
実施期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
目 標	<p>浅口商工会は、浅口市と里庄町、地域の認定支援機関と連携を強化しながら、小規模事業者の持続的発展、地域経済の活性化に繋げていく。</p> <p>また、浅口地域内が抱える問題・課題や小規模事業者の長期的な振興の在り方を具現化するため、今後5年間、以下の3点を柱に取り組んでいく。</p> <p>①経営力向上による収益性の確保 ②地域資源を活用した商品開発等による売上拡大 ③事業承継、創業支援による事業者数維持と雇用機会の創出</p>
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の経済動向調査に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグデータを活用した地域の経済動向分析の実施と情報提供を行う。</li> <li>・浅口地域内の景気動向調査の実施と情報提供を行う。</li> </ul> </li> <li>2. 需要動向調査に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・新商品等の市場動向や消費者ニーズを把握するための調査を行う。</li> </ul> </li> <li>3. 経営状況の分析に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ローカルベンチマーク」等の経営分析ツールを活用した経営分析を行う。</li> </ul> </li> <li>4. 事業計画策定支援に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営指導員と専門家が連携したより実現可能な事業計画の策定支援を行う。</li> </ul> </li> <li>5. 事業計画策定後の実施支援に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な巡回による進捗上の把握と事業計画とのズレや遅れが生じた場合、課題解決に向けた伴走支援を実施する。</li> </ul> </li> <li>6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外の百貨店と連携した「あさくちフェア」をはじめ、販売機会の提供による新たな販路開拓を行う。</li> </ul> </li> <li>7. 事業の評価・見直しをするための仕組みに関すること</li> <li>8. 経営指導員等の資質の向上等に関すること</li> <li>9. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること</li> <li>10. 地域経済の活性化に資する取組に関すること</li> </ol>
連絡先	<p>浅口商工会 〒719-0243 岡山県浅口市鴨方町鴨方 2244-8 TEL：0865-44-3211 FAX：0865-44-3212 E-MAIL：asakuchi@okasci.or.jp</p> <p>浅口市役所 産業振興課 〒719-0295 岡山県浅口市鴨方町六条院中 3050 TEL：0865-44-9035 FAX：0865-44-9477</p> <p>里庄町役場 企画商工課 〒719-0398 岡山県浅口郡里庄町里見 1107-2 TEL：0865-64-3114 FAX：0865-64-3126</p>

(別表1)

経営発達支援計画

経営発達支援事業の目標

1. 目標

(1) 地域の現状及び課題

① 浅口地域の立地

浅口商工会は、平成18年3月21日に浅口郡鴨方町、金光町、寄島町の3町が合併して発足した浅口市と里庄町の1市1町の地域を管轄する。また、浅口商工会は、行政合併に伴い、平成18年4月1日に旧鴨方商工会、旧金光町商工会、旧寄島町商工会、旧里庄町商工会の4つの商工会が合併し現在に至っている。

浅口市及び里庄町（浅口地域）は、岡山県南西部に位置し、浅口地域の面積は、78.69㎢（浅口市の面積は、66.46㎢、里庄町の面積は12.23㎢）と県下でも狭い地域となっている。

浅口地域は、地域内を山陽自動車道や国道2号、JR山陽本線、山陽新幹線が通るなど、交通の要衝となっているが、国道2号は、物流と生活道路として慢性的に渋滞している。

渋滞緩和のための倉敷（玉島）と福山を結ぶ玉島笠岡道路の建設が進められており、その内の玉島と金光を結ぶ道路が2015年3月に開通し、金光と笠岡を結ぶ道路が2025年に完成予定である。

また、浅口地域の自然環境は、北に天文台を有する遙照山系、南には瀬戸内海・寄島漁港と多様な地勢に囲まれるなど、瀬戸内特有の温暖小雨で過ごしやすい自然に恵まれた地域である。

R3.6末現在

	面積	総人口
浅口市	66.46 ㎢	32,553 人
里庄町	12.23 ㎢	10,944 人
合計	78.69 ㎢	43,497 人

(資料：住民基本台帳)

一方、商圏は、東に美観地区で有名な倉敷市、西には笠岡市や広島県福山市と比較的規模が大きい商圏や大規模工業集積地が近くにあるため、当地域はそのベッドタウンとして大小多数の戸建住宅団地を持つ行政区域となっている。



【浅口商工会の位置】



② 浅口地域の人口推移

当地域の人口は、国勢調査による管内人口推移予測（表1）によれば、浅口市・里庄町とも全国同様に人口減少が予想されている。また、労働人口（15～64歳以下）についても、25年後の2040年の予測では、浅口市では31.4%、里庄町では19.0%もの減少が予測されており、全国の人口減少率を上回っている。このことは、今後、小規模事業者にとって、“購買力減少”と“労働力不足”の影響を受けることが確実であり、特に海外展開能力に乏しい非製造業分野（商業・サービス業など）の小規模事業者は、国内需要縮小の影響をまともに受けることが予測される。

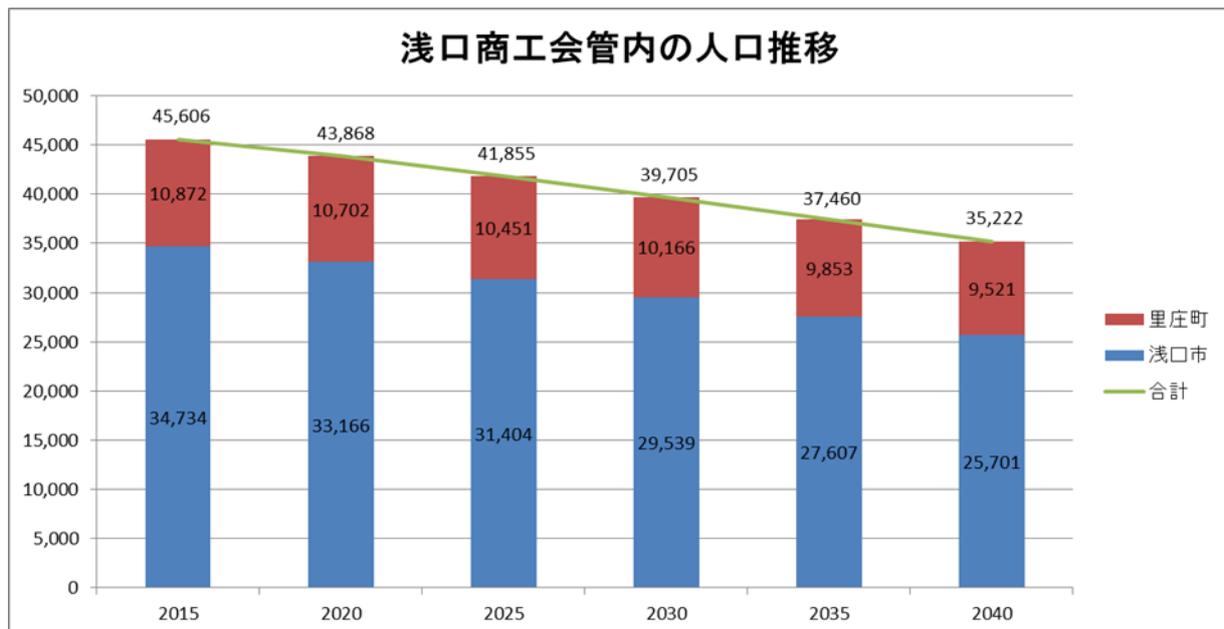
○表 1 管内人口推移予測

浅口市	項目	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
	総数(人)	34,734	33,166	31,404	29,539	27,607	25,701
	減少率(%)	-	3.5	9.6	15.0	21.5	26.0
	0～14歳	3,936	3,526	3,139	2,819	2,608	2,450
	15～64歳	18,641	17,397	16,405	15,466	14,283	12,784
	減少率(%)	-	6.7	12.0	17.0	23.4	31.4
	65歳以上	12,157	12,243	11,860	11,254	10,716	10,467

里庄町	項目	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
	総数(人)	10,872	10,702	10,451	10,166	9,853	9,521
	減少率(%)	-	1.6	3.9	6.5	9.4	12.4
	0～14歳	1,470	1,387	1,286	1,205	1,165	1,140
	15～64歳	6,082	5,824	5,651	5,535	5,311	4,928
	減少率(%)	-	4.2	7.1	9.0	12.7	19.0
	65歳以上	3,320	3,491	3,514	3,426	3,377	3,453

(資料：国勢調査)



※国勢調査より本会にて作成

### ③浅口地域の産業

#### ■地場産業

浅口地域の地場産業としては、手延べ麺や地酒をはじめ、古くから伝わる付加価値の高い製品や魅力ある地域資源が多くあるものの、経営者の高齢化や後継者問題などにより、年々事業者が減少しており、産地としてのブランド力強化や新たな販路開拓が求められている。

#### 【手延べ麺】

浅口地域の製造業者は、現在16社であり、10年前と比較すると17社も減少している。手延べうどん生産量は全国でトップクラスであるが、手延べ麺の産地では、兵庫県・長崎県の上位2県が突出しており、岡山県は6位である。特に、兵庫県の「揖保乃糸」のブランドが有名であるが、当地域には、岡山県製粉製麺工業協同組合が作った「松乃雪」ブランドがある。

### 【地酒】

当地域には、昔から続く造り酒屋が現在5社ある。しかしながら、国内での清酒の消費量は、年々減少しているため、東南アジアやヨーロッパ、アメリカなど海外への市場展開や若い世代や女性層を意識した商品開発など、新たな販路拡大が鍵となる。

### 【帽子】

浅口地域は、日本有数の麦わら主産地で、麦わらを真田紐のように編んだ麦稈真田（ばっかんさなど）で帽子を作ったのが始まり。現在、6社が帽子製造に携わっている。近年、帽子を製造する職人の担い手が減少する中、材料から「メイドインジャパン」に拘ったオリジナリティあるデザインや技術に取組みOEMからの脱却を図っている。

### 【ストロー】

浅口地域は、ストロー発祥の地と言われている。現在、4社が製造しており、日本国内のみならず、「メイドインジャパン」として、数百種類のストローを製造しているが、プラスチックストローが海洋汚染を引き起こすなど、新たな問題に直面している。環境に優しい生分解性プラスチックを製造開始するなど、海洋プラスチックごみ問題などの解決に向けて積極的に取り組んでいる。

### 【植木】

金光地区は、「植木のまち」として、古くから全国的に知られている。毎年、春と秋には、「植木まつり」が開かれ、植木はもちろん、観葉植物や、盆栽、鉢花など季節の花木約1,000種、3万本が展示即売される。年々、経営者の高齢化により植木業者は減少傾向にあるが、近年「日本庭園」の人気により外国人客が増えており、市場規模は拡大している。

## ■産業構造

令和2年度の「商工会の現状（岡山県商工会連合会作成）」（表2）によれば、当地域の商工業者数は、この10年間（平成23年度と令和2年度との比較）で、74社（約5.7%）減少しており、管内人口の減少率5.6%と同様の動きを見せている。

業種別でみると、製造業が17.2%減少、卸小売業が20.0%と突出して減少している。他の業種に至っては、建設業が6.3%で増加傾向にあり、飲食サービス業が9.1%、その他が2.8%と増加しているが、直近で言えば、横ばい傾向である。

小規模事業者数は、この10年間の比較で、54社（約4.9%）減少しているが、管内人口の減少率と比較すると、若干減少率が抑えられている。

○表2 管内の商工業者の業種別内訳

項目	管内人口 (人)	商工業者						小規模 事業者
			建設業	製造業	卸小売 業	飲食サー ビス業	その他	
平成23年度	47,995	1,302	190	233	410	361	108	1,113
平成29年度	46,255	1,273	196	200	354	400	123	1,098
平成30年度	45,821	1,239	196	195	343	393	112	1,067
令和元年度	45,609	1,225	198	191	335	391	110	1,055
令和2年度	45,322	1,228	202	193	328	394	111	1,059
H23との増減数	▲2,673	▲74	12	▲40	▲82	33	3	▲54
H23との増減率	▲5.6	▲5.7	6.3	▲17.2	▲20.0	9.1	2.8	▲4.9

（資料：商工会の現状）

## 商工業者の業種別推移



※商工会の現状より本会にて作成

### 【建設業】

平成18年に鴨方町、金光町、寄島町の3町が行政合併し、浅口市が誕生。このことにより、公共工事の受注が大幅に減少している。また、若年層や労働人口の減少による人手不足・技術者不足も大きな課題である。公共工事依存体質から脱却し、民間等新規顧客の獲得や新たな役務の提供、新分野への進出を図るための経営刷新が求められている。

### 【製造業】

近くには、鉄鋼・自動車・繊維・造船などの倉敷市水島や広島県福山市を含む瀬戸内工業地帯があり、当地域においても、下請企業が数多く存在している。しかしながら、仕事量が安定している半面、利益が出にくく、大企業の動向の影響を受けやすいなどの課題を抱えており、付加価値の高い自社ブランドの開発や新たな販路開拓が求められている。

### 【卸小売業】

卸小売業は、大型量販店進出による低価格競争にさらされており、特に当地域は、県下商工会地域の中でも、最も大型量販店の進出が多い地域であり、ここ10年で約20%減少している。一方、倉敷市・笠岡市・福山市といった都市間・商業集積間の競争も激しく、地元購買力の流出が著しい。消費者ニーズに応える魅力ある店舗づくりや、他地域に流れている資金を地元呼び込む対策が求められている。

### 【飲食サービス業】

浅口地域は、倉敷市・笠岡市・福山市のベッドタウンとして生活産業の需要が増えており、小規模な個人経営の飲食店・理美容業等の創業が多くなっている。一方、経営者の高齢化や後継者難による廃業も多くなっており、創業時だけでなく、地元根付くための継続した幅広い支援が求められている。

#### ④浅口地域の課題

##### ・地元購買力

国道2号沿いをはじめとして、浅口地域内では、毎年多くの大型店が進出している。大型家電・ドラッグストア・コンビニエンスストア・スーパーマーケットなど、ここ10年で、新たに十数店舗が進出しており、地元商工業者に与える影響は大きい。

また、東方面の倉敷には、イオンモール倉敷、天満屋、アリオ倉敷など、西方面の広島県福山市には、天満屋、ゆめタウン福山などの大型複合施設が存在し、車で30分程度で気軽に行くことができる。

今後は、大型店にはない個店の魅力をアピールするとともに、安全・安心や新鮮さなど高付加価値な商品（オンリーワン）を、いかに提供できるかが重要である。

##### ・後継者問題

平成29年度に実施した「経営状況に関するアンケート調査」では、60歳以上の経営者で後継者がいないと回答した事業所は、実に72.3%であった。

後継者がいない理由として多いのは、後継ぎがいるにも関わらず、既存事業の低迷により、事業を引き継ぐことが難しいケースである。今後は、円滑な事業承継を進めるためにも、事業存続のための売上拡大と安定した経営を続けるための支援を継続して行う必要がある。

一方、業績が「好転」、もしくは「不変」であるにも関わらず、後継者がいない業者も多数存在しているため、従業員や第三者への事業継承も重要な取組みとなる。

#### (2) 小規模事業者に対する長期的な振興のあり方

浅口商工会は、(1) 地域の現状及び課題 (①浅口地域の立地、②浅口地域の人口推移、③浅口地域の産業、④浅口地域の課題) を踏まえ、浅口市、里庄町、地域の認定支援機関と連携を強化することで、小規模事業者の持続的発展、地域経済の活性化に繋げていく。

#### ①10年程度の期間を見据えて

##### ア. 業種別・地場産業の支援による地域内消費拡大と売上高の維持

減少率が著しい製造業、卸小売業や地場産業を重点的に支援するため、企業規模や成長段階に応じた経営計画の策定を推進する。

また、経営計画の作成・実施・検証を通じて、従来型のビジネスモデルからの転換や新たな販路開拓、経営力の向上を支援し、安定的な事業経営を目指す。

##### イ. 地域資源を活用した商品開発・販路開拓

新たな地域資源や新商品の再発掘を行い、あさくちブランド認定に向けた新商品の開発や既存商品のブラッシュアップなど、関係機関や専門家と連携し、魅力ある商品づくりを目指す。

また、県内外の百貨店と連携による「あさくちフェア」を継続的に開催し、より多くの事業者にも販路拡大の機会を提供することで、新規顧客獲得による売上拡大を図る。

##### ウ. 円滑な事業承継支援による地域内事業者数の維持

事業承継をスムーズに進めるためには、将来の事業承継を見据えた企業価値を高める支援が重要である。そのためには、事業承継に向けた早期取組みを啓発するとともに、現在の経営状況を詳細に把握するため、各支援機関と連携を図りながら、事業計画策定支援を実施し、円滑な事業承継の実現を図る。

## エ. 創業支援による地域内事業者数の維持

地域内事業者数の減少に歯止めを掛けるため、浅口市・里庄町の産業競争力強化法における創業支援等事業計画など、両行政をバックアップしながら、浅口地域内での新たな起業を促進する。

## ②浅口市・里庄町における産業振興計画との連動性・整合性

浅口市では、第2次浅口市総合計画の中で、「地域資源の活用と新たなビジネス展開による産業力の強化」、里庄町では第4次里庄町振興計画の中で、「活力と魅力あふれる元気なまち」を基本目標の一つに掲げており、活力ある商工業の振興や、地域の特性を生かした農林漁業の振興、雇用環境の充実を目指している。

### ア. 第2次浅口市総合計画（浅口市）との関連項目（抜粋）との連動性・整合性

第2次浅口市総合計画	連動性・整合性ならびに商工会のビジョン
①工業団地を中心とした工業振興と地場産業の育成	減少率が著しい製造業や地場産業を重点的に支援し、経営計画を策定することで経営力向上による経営の安定化を図る。
②楽しさとにぎわいを創出する商業の振興	円滑な事業承継と創業支援を積極的に進め、地区内事業者数を維持と雇用機会を増やすことで、楽しさと賑わいを創出する。
③6次産業化や企業支援などによる新たな活力の創出	地域資源を活用し、新たな商品開発や6次産業化、販路開拓により、売上高の維持・増加を図る。

### イ. 第4次里庄町振興計画（里庄町）との関連項目（抜粋）との連動性・整合性

第4次里庄町振興計画	連動性・整合性ならびに商工会のビジョン
①商工業の振興	従来型のビジネスモデルからの転換や新たな販路開拓、経営力の向上を支援し、安定的な事業経営を目指す。
②雇用環境の充実	円滑な事業承継と創業支援を積極的に進め、地区内事業者数を維持と雇用機会を増やすことで、楽しさと賑わいを創出する。
③観光振興・地域ブランドの充実	新たな地域資源や新商品の再発掘を行い、あさくちブランド認定に向けた魅力ある商品づくりを目指す。

## ③商工会としての役割

本会は、支援体制として、岡山県・浅口市・里庄町・岡山県商工会連合会「広域サポートセンター」・岡山県産業振興財団・日本政策金融公庫倉敷支店・中小企業基盤整備機構・岡山県よろず支援拠点・地域の金融機関・その他支援機関と連携し、地域の特性に合わせた小規模事業者の需要を見据えた事業計画の策定や販路開拓等について伴走支援し、地域課題解決支援の中心的役割を果たす。

### （3）経営発達支援事業の目標

上記で示した「当地域における小規模事業者の長期的な振興のあり方」を具現化するため、今後5年間の目標を次のとおり設定し、地域内小規模事業者に寄り添った経営発達支援事業を効率的に実施し、小規模事業者の持続的発展を目指す。

#### ①経営力向上による収益性の確保

地域の特性や顧客ニーズ、自社の経営状況を確実に把握し、企業規模や成長段階に応じた事業計画を作成することで、収益性を確保し、競争力の強い事業者を育成する。

## ②地域資源を活用した商品開発等による売上拡大

地域資源の再発掘を行い、地域資源を活用した商品開発や販路開拓にも積極的に取り組み、売上高を維持・増加させることで、環境変化に強い事業者を育成する。

## ③事業承継、創業支援による事業者数維持と雇用機会の創出

地域内小規模事業者の高齢化が進んでおり、事業の維持発展のためには、円滑な事業承継を促進させる必要がある。

また、本会に創業窓口を設置し、創業前から創業後まで一貫した支援を行うことで、新規創業を促し、地域の雇用機会を創出する。

### 【数値目標】

項目	現 状	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
事業計画策定事業者数	60 件	60 件	60 件	60 件	60 件	60 件
売上高（利益）の維持・増加事業者数	10 者	10 者	10 者	10 者	10 者	10 者
事業承継支援件数	6 件	6 件	6 件	6 件	6 件	6 件
創業件数	3 件	3 件	3 件	3 件	3 件	3 件

## 経営発達支援事業の内容及び実施期間

### 2. 経営発達支援事業の実施期間、目標の達成方針

(1) 経営発達支援事業の実施期間（令和4年4月1日～令和9年3月31日）

(2) 目標の達成に向けた方針

上述の①～③の目標に対し、それぞれ以下の目標達成方針で取り組む。

#### ①経営力向上による収益性の確保

減少率が著しい製造業、建設業、卸小売業や地場産業を重点的に支援するため、企業規模や成長段階に応じた経営計画の策定を推進する。

また、経営計画の作成・実施・検証を通じて、従来型のビジネスモデルからの転換や新たな販路開拓、経営力の向上を支援し、安定的な事業経営を目指す。

#### ②地域資源を活用した商品開発等による売上拡大

地域の特産品や観光土産物などの新たな商品開発や発掘を行い、県内外の百貨店と連携した「あさくちフェア」の開催や他団体が主催する展示商談会への出展など、販売機会を提供することで、新たな需要拡大を図り、安定的な経営をサポートする。

#### ③事業承継、創業支援による事業者数維持と雇用機会の創出

事業承継に向けた早期取組を啓発するとともに、現在の経営状況を詳細に把握するため、各支援機関と連携を図りながら事業計画策定支援を実施し、円滑な事業承継の実現を図る。

また、地域内事業者数の減少に歯止めを掛けるため、浅口市・里庄町の産業競争力強化法における創業支援等事業計画と連携を図りながら、浅口地域内での新規創業を促進する。

### 3. 地域の経済動向調査に関すること

(1) 現状と課題

#### ①現状

第2期において、商勢圏実態調査と玉島笠岡道路開通による影響調査を予定していたが、消費税増税や新型コロナウイルスの影響、玉島笠岡道路開通においては、工事の遅れなどで実施できていない。

#### ②課題

岡山県商工会連合会から委託を受けて中小企業景況調査を行っているが、浅口地域全体の状況判断としてはデータ数が少なく情報の提供ができていない。今後はビッグデータ等を活用しながら実施する。

(2) 目標

項目	公表方法	現行	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
①地域の経済動向分析の公表回数	HP掲載	—	1回	1回	1回	1回	1回
②景気動向調査の公表回数	HP掲載	—	4回	4回	4回	4回	4回

### (3) 事業内容

#### ①国が提供するビッグデータの活用

浅口地域内の経営環境や人口動態、消費者動向等の現状を把握するため、経営指導員等が「RESAS」(地域経済分析システム)を活用した地域の経済動向分析を行い、年1回公表することで小規模事業者の支援に活用する。

##### 【分析手法】

- 地域経済循環マップ・生産分析・・・何で稼いでいるか等を分析
  - まちづくりマップ・From-to分析・・・人の動き等を分析
  - 産業構造マップ・・・産業の現状等を分析
- ⇒上記の分析を総合的に分析し、事業計画策定支援等に反映する。

#### ②浅口地域の景気動向調査の実施

浅口地域内の小規模事業者等の景気動向をより詳細に把握するため、各業種5社計25社程度を調査対象として、四半期ごとに年4回実施する。

##### 【調査対象】

管内小規模事業者25社  
(製造業、建設業、卸・小売業、飲食店・宿泊業、サービス業から各5社)

##### 【調査項目】

・売上額 ・仕入価格 ・経常利益 ・資金繰り ・雇用 ・設備投資等

##### 【調査手法】

経営指導員等によるヒアリングを実施する。

##### 【分析手法】

経営指導員が外部専門家と連携し分析を行う。

### (4) 成果の活用

情報収集・調査、分析した結果は、商工会ホームページに掲載するほか、商工会報、商工会ニュース等でも情報提供を行うなど、広く管内事業者等に周知する。

また、経営指導員等が事業計画策定等の経営支援を行う際の参考資料として活用する。

## 4. 需要動向調査に関すること

### (1) 現状と課題

#### ①現状

平成28年度に、関東アンテナショップ「とっとり・おかやま新橋館」において、「あさくちフェア」を開催。平成29年度、令和元年度には、東京ビックサイト「グルメ&ダイニングスタイルショー」に出展し、来場者向けアンケートを実施した。アンケート結果では、商品自体に魅力は感じているが、浅口地域としての認知度がかなり低いことが分かった。

#### ②課題

アンケートの結果について、今後の商品開発等の事業展開に十分に活かしきれていない。

今後は、支援対象とする出展事業者の商品やサービス等について、個別に需要動向を調査するとともに、分析結果についてフィードバックすることで、事業計画策定や策定後の事業展開の支援を行い、併せて、浅口地域の認知度向上にも繋げていく。

## (2) 目標

項目	現行	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
①新商品開発の調査対象事業者数	—	5 者	5 者	5 者	5 者	5 者
②試食、アンケート調査対象事業者数	1 者	1 者	1 者	1 者	1 者	1 者

## (3) 事業内容

### ①新商品開発調査

あさくちブランド認定事業者をはじめ、過去に認定にいたらなかった事業者や新規事業者を経営指導員と外部専門家が実際に事業所へ足を運ぶことで、新商品の開発状況や既存商品の問題等を確認・改善することで、新たな観光資源を活用した地域資源の発掘を行う。

### ②展示商談会等の出展における来場者向けアンケート実施

県内外の百貨店と連携した当商工会主催の「あさくちフェア」をはじめ、展示商談会等の出展業者に対し、自らが開発した商品や地域資源を活用した既存商品（あさくちブランド含む）について、市場動向や消費者ニーズを把握するための来場者向けアンケートを実施する。

調査結果を分析し、当該事業者へフィードバックすることで、新商品の開発や既存商品のブラッシュアップを図るとともに、新たなあさくちブランドの認定によって、地域ブランドの認知度向上を図る。

#### 【対象者】

展示商談会等へ出展する自社開発商品や地域資源を活用した既存商品を扱う事業者

#### 【サンプル数】

来場者 100人

#### 【調査方法・手法】

開発中の商品や既存の商品を試飲・試食等していただき、商品に対する意見をアンケートにより聞き取る。

#### 【調査項目】

・商品に関する味 ・見た目 ・価格 ・パッケージほか

#### 【分析方法・活用】

経営指導員が分析を行い、商品改良に必要な情報を該当事業者にフィードバックする。

## 5. 経営状況の分析に関すること

### (1) 現状と課題

#### ①現状

当商工会では、日常的巡回と年2回の季節巡回によって、定期的に定性情報の収集を行っている。また、決算申告時期や個別相談等で知り得た財務情報についても、岡山県商工会連合会が運営している「小規模事業者支援システム」に逐次情報を登録することで、情報の「見える化」を図っている。

#### ②課題

常に最新の情報に保つために、今後も、日常的巡回と年2回の季節巡回を実施し、継続して安定的に情報を収集・更新させることで、きめ細かな伴走支援に繋げていく。

## (2) 目標

項目	現行	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
①経営分析事業者数	100 者					

## (3) 経営分析の事業内容

### ①巡回・窓口相談による支援案件の掘り起こし

日常的に経営指導員等による巡回を行い、経営支援の基礎データとなる定性的データ（企業の沿革や後継者の有無等）の「見える化」を恒常化させる。

また、個別相談会や申告時期等に合わせて、決算書等の定量的データを「小規模事業者支援システム」と連携し、財務情報を分析することで、支援レベルのランク付けを行い、支援案件の発掘を行う。

### ②経営分析の内容

#### 【対象者】

巡回・窓口相談の中から、事業計画策定に意欲があり、持続的発展の可能性が高い事業所100者を選定する。

#### 【分析項目】

- 基本情報・・・企業沿革・取引先・後継者・人材・設備・強みなど
- 財務分析・・・売上高・売上高総利益率・売上高増加率・損益分岐点など
- SWOT 分析・・・強み・弱み・機会・脅威など

#### 【分析手法】

小規模事業者支援システムの機能を活用し、経営状況の推移や損益分岐点分析、キャッシュフロー計算書等を作成し、事業者へ提供する。また、細かな分析については、経済産業省の「ローカルベンチマーク」や中小機構の「経営計画つくるくん」等のソフトを活用し、経営指導員が分析を行う。

## (4) 分析結果の活用

分析結果は、指導員会議等で共有するとともに、日常的巡回や決算申告時期、重点巡回等で当該事業者にフィードバックすることで、事業計画の策定等に活用する。

## 6. 事業計画策定支援に関すること

### (1) 現状と課題

#### ①現状

持続化補助金やものづくり補助金等の補助金申請をする事業者が増加する中、事業計画の作成支援の依頼も増加傾向にあり、当商工会では、よろず支援拠点と連携した月1回の個別相談会の実施や定期的に岡山県商工会連合会広域サポートセンターから専門家の派遣を依頼するなど、事業計画の策定支援を全面的にバックアップしている。

#### ②課題

事業計画の策定にあたっては、事業計画の方向性や専門性の高い課題・問題等についても支援する必要がある。当商工会では、引き続き、よろず支援拠点や岡山県商工会連合会広域サポートセンターと連携しながら、事業計画の作成支援を実施する。

## (2) 支援に対する考え方

小規模事業者が持続的に維持・発展を続けるためには、地域の特性や顧客ニーズ、自社の経営状況を確実に把握する必要がある。そのためには、事業計画の策定が不可欠であるが、小規模事業者に対して、事業計画策定の意義や重要性を漠然と説明しても実質的な行動や意識を変化させることは難しい。

したがって、持続化補助金等の申請を契機として、経営計画の策定を目指す事業者の中から実現可能性の高いものを選定し、事業計画の策定に繋げていく。

また、事業計画の策定前段階において、DXに向けたセミナー等を行い、小規模事業者の競争力の維持・強化を目指す。

一方、事業計画の策定にあたっては、事業者にとって敷居が高いものとなっているため、よろず支援拠点や岡山県商工会連合会広域サポートセンターと連携し、専門家を派遣するなど、事業所に寄り添った伴走型の指導・助言によって、事業計画の策定支援を行う。

## (3) 目標

項目	現行	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
①個別相談会開催回数	20 回	20 回	20 回	20 回	20 回	20 回
②IT 専門家派遣回数	—	4 回	4 回	4 回	4 回	4 回
③事業計画策定事業者数	60 者	60 者	60 者	60 者	60 者	60 者

## (4) 事業内容

### ①個別相談会の開催

各種補助金等の申請を希望する事業所や既知の経営課題解決などの相談を希望する事業者に対し、よろず支援拠点や岡山県商工会連合会と連携した個別相談会を年20回開催する。

#### 【支援対象】

経営分析を行った事業者を対象とする。

#### 【手段・方法】

事業計画の策定を希望する事業者に対し、経営指導員等が担当制で張り付き、外部専門家を交えて確実に事業計画の策定に繋げていく。

### ②DX推進のためのIT 専門家派遣の実施

Webサイトの再構築やECサイトの導入など、安易な気持ちで導入する事業者が多く、導入後、あまり成果が出ていない事業者も多い。

個別相談会の受講者や持続化補助金等の申請を契機として、DXに対する取組み意欲が高い事業者に対して、事業効果を高めるために、経営指導員等による相談対応のほか必要に応じてIT 専門家派遣を年4回実施する。

#### 【支援対象】

DXに対する取組み意欲が高い事業者を対象とする。

#### 【手段・方法】

DXに向けたITツールの導入やWebサイトの再構築等、事業計画の策定を希望する事業者に対し、外部専門家を交えて事業計画の中に盛り込んでいく。

## 7. 事業計画策定後の実施支援に関すること

### (1) 現状と課題

#### ①現状

当商工会では、事業計画を策定した事業者に対してのフォローアップを重視した重点巡回を実施している。各事業所の進捗状況を把握することで、新たな課題・問題等に対して、適切な指導・支援を行っている。

また、経営指導員等に対応することが難しい案件に関しては、岡山県商工会連合会広域サポートセンターやよろず支援拠点と連携し、各事業者の経営課題を解決するとともに事業計画の軌道修正を行っている。

#### ②課題

実現性の高い事業計画を実施するためには、進捗状況の確認及びフォローアップが必然である。引き続き、フォローアップを重視した重点巡回を行うことで、課題解決に向けた伴走支援を実施する。

### (2) 支援に対する考え方

小規模事業者のほとんどが、限られた経営資源の中で、経営に集中しているため、中長期的な視野で経営計画の進捗状況を管理していくことは非常に難しい。

当商工会では、事業計画を策定した全ての事業者を対象にフォローアップ支援を実施する。ただし、事業計画の進捗状況により、訪問回数を増やして集中的に支援すべき事業者とある程度順調と判断し訪問回数を減らしても支障ない事業者とを見極めた上で、フォローアップ支援を実施する。

### (3) 目標

項目	現行	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
フォローアップ対象事業者数	60 者					
頻度 (延回数)	220 回					
売上増加事業者数	—	10 者	12 者	14 者	16 者	18 者
利益率 2%以上増加の事業者数	—	3 者	4 者	5 者	6 者	7 者

### (4) 事業内容

重点巡回の頻度として、事業計画策定 60 社のうち、5 社は毎月 1 回、25 社は四半期に 1 回、他の 30 社は年 2 回とする。なお、進捗状況が思わしくなく、事業計画との間にズレが生じていると判断する場合には、指導員会議等でその原因や対策を言及するとともに、必要に応じて外部専門家を投入し、当該ズレの発生要因・今後の対応方針を検討の上、フォローアップ頻度の変更等を行う。

#### ①巡回指導等

事業計画策定後 1 ヶ月を目途に重点巡回を実施する。担当の経営指導員等が巡回訪問等により、事業計画の実施状況をヒアリングし、事業の進捗状況の確認を行う。事業計画の進捗状況に遅れが見られる場合やズレが生じている場合は、指導員会議等でその原因と対策を協議し、課題解決に向けた伴走支援を実施する。

## ②個別相談会

岡山県商工会連合会広域サポートセンターの嘱託専門指導員と専門経営指導員との連携による個別相談会を必要に応じて開催する。特に、事業計画にズレが生じている事業者に対しては、この個別相談会でそのズレの原因とその対応策について検討する。

## ③外部専門家及び関係機関との連携

より複雑で専門的な経営課題については、中小企業119の専門家派遣をはじめ、その他の支援機関と連携し、課題解決に向けた伴走支援を実施する。

## 8. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

### (1) 現状と課題

#### ①現状

当商工会では、地域特産品を創る目的で、平成20年度から「あさくちブランド『浅口の幸』」の認定を行っている。認定された商品については、商工会ホームページや「ふるさと自慢キラめく一品たち（浅口地域加工商品カタログ）」で紹介するなど、販路開拓に注力している。

#### ②課題

令和2年度から、県内外の百貨店と連携し、新たな販売機会を提供する「あさくちフェア」を開催した。実際に百貨店との取引開始や新規顧客獲得に繋がり、大きな成果があったことから、引き続き、展示会への出展支援を継続して行うことで、商談成功確率を高めるとともに、SNSやECサイト等DX推進の重要性を理解・認識させることで、新規顧客獲得による販路拡大を支援する。

### (2) 支援に対する考え方

県内外の百貨店と連携した当商工会主催の「あさくちフェア」をはじめ、新商品や既存商品（あさくちブランド含む）のさらなる販路拡大を目指す事業者に対して、販売機会の場を提供する。

また、出展する事業者に対して、食品表示法への対応や商品の見せ方など、専門家による個別相談会や見本市を開催することで、効果的な出展支援を実施する。

DXに向けた取組として、データに基づく顧客管理や販売促進、SNS、ECサイトの利用等、個別に相談対応を行い、理解度を高めた上で、導入にあたっては必要に応じてIT専門家派遣等を実施するなど、事業者の段階に合った支援を行う。

### (3) 目標

項目	現行	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
①県内外展示会出展事業者数	4者	10者	10者	10者	10者	10者
売上額／者	10万円	10万円	10万円	10万円	10万円	10万円
②個別相談会・見本市参加事業者数	12者	12者	12者	12者	12者	12者
成約件数／者	1件	1件	1件	1件	1件	1件
③SNS活用事業者数	—	5者	5者	5者	5者	5者
売上増加率／者	—	5%	5%	5%	5%	5%
④ECサイト利用事業者数	—	5者	5者	5者	5者	5者
売上増加率／者	—	5%	5%	5%	5%	5%

#### (4) 事業内容

##### ①県内外展示会出展事業

###### ア. 岡山高島屋「あさくちフェア」出展事業 (B t o C)・・・来場者数：約 5,000 人

岡山高島屋地下2階食料品売場の特設ブースを借り上げ、あさくちブランド認定事業者やふるさと自慢キラめく一品たち掲載事業者、地域資源を活用した新たな商品を開発した事業者を優先的に出展し、新たな需要開拓を支援する。

###### イ. 天満屋福山店「あさくちフェア」出展事業 (B t o C)・・・来場者数：約 5,000 人

井原市・笠岡市・矢掛町・浅口市・里庄町の井笠地域の支援機関の連携により、「井笠・あさくちフェア」を天満屋福山店7階催事場において開催する。

※対象事業者は、岡山高島屋「あさくちフェア」と同じ。

##### ②商談会参加事業 (B t o B)

岡山県内外の百貨店のバイヤーを商工会へお招きし、直接担当者と商談を行う「個別相談会・見本市」を実施する。前述した「あさくちフェア」と連携し、実際に出展する事業者を対象に、見本市に向けた個別相談会を開催する。

実際に出展する商品に対するアドバイス等をいただくことで、新たな商品開発や商品改良・改善に活かすなど、商談成立に向けた実効性の高い支援を行う。

また、おかやまテクノロジー展や岡山県しんきん合同ビジネス交流会をはじめ、他団体主催の商談会等へ自主出展する事業者に対しても、ブースレイアウトや商品の見せ方などについて、専門家を通じて個別に指導していただき、商談成立に向けた実効性の高い支援を行う。

##### ③SNS活用

顧客の大半が近隣の商圈に限られていることから、新しい商品やサービスの認知拡大を図るとともに、より遠方の顧客取込のため、SNSを有効するための支援を行う。

##### ④ECサイト活用 (B t o C)

自社HPによるネットショップの開設や既存サイトの再構築、あるいは、大手ECサイトが運営するショッピングサイト等の提案を行いながら、効果的な商品紹介・写真撮影、商品構成等の伴走支援を行う。

#### 9. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること

##### (1) 現状と課題

###### ①現状

浅口市産業振興課長、里庄町企画商工課長、法定経営指導員等をはじめ、外部有識者として中小企業診断士を加えたメンバーによる「経営発達支援事業検討会」を年3回開催し、事業内容についての評価・検証を行っている。

###### ②課題

事業計画を確実に実行していくためには、進捗状況の確認と事業内容についての的確な評価・検証を行う必要がある。引き続き、外部有識者である中小企業診断士の意見を求めながら、事業計画の実行・改善を行うこととする。

## (2) 事業内容

毎年度、本計画に記載の事業実施状況及び成果について、P D C Aサイクルの流れで事業を実施する。具体的には、以下の方法により、毎年度評価・検証を行う。

- ①浅口市産業振興課長、里庄町企画商工課長、法定経営指導員等をはじめ、外部有識者として中小企業診断士をメンバーに加えた「経営発達支援事業検討会」を設置し、事業の実施状況の報告や事業内容の評価・検証を行う。
- ②理事会において、事業の成果・評価・見直し結果を報告し、承認を受ける。
- ③事業の成果・評価・見直し結果を浅口商工会の公式ホームページにて公表する。

※浅口商工会公式ホームページ (<http://asakuchi.jp/>)

## 10. 経営指導員等の資質向上等に関すること

### (1) 現状と課題

#### ①現状

令和元年6月に浅口商工会本部(鴨方)地区支援センター及び里庄地区支援センターを設置し、職員集約を行った。

本部(鴨方)地区支援センターには、局長1名、法定経営指導員1名、経営指導員4名、補助員1名、記帳専任職員3名、記帳指導員3名、里庄地区支援センターには、経営指導員1名、補助員1名、記帳指導員1名を配置している。

職員を集約することで、情報の共有やO J Tによる支援が効率的に行うことができ、経営支援のレベルアップに繋がっている。

#### ②課題

本部(鴨方)と里庄支所は、物理的に距離があるため、定期的に局長・指導員ミーティング等を開催し、情報を共有することで、経営指導員等の資質向上を図っていくことが重要である。

また、DXにあたっては、外部講習会等を積極的に活用し、経営指導員等のスキル向上を図ることで、地域事業者のDX推進を図ることとする。

## (2) 事業内容

### ①外部講習会等の積極的活用

岡山県商工会連合会が主催する経営指導員等研修や中小企業基盤整備機構が主催する中小企業支援担当者等研修(交代で2年に1回)に出席し、事業計画策定支援に係るノウハウや小規模事業者が抱える課題発見、目利き能力などを習得し、支援能力の向上に繋げる。

また、当商工会で独自で主催する専門家を招いての全職員参加の「税務・労務研修会」や経営指導員及び職員が講師となっていく「商工会業務勉強会」を実施し、経営支援のノウハウを共有する。

喫緊の課題である地域事業者のDX推進への対応にあたっては、経営指導員等のITスキルを向上させ、ニーズに合わせた相談・指導を可能にするため、下記のようなDX推進取組に係る相談・指導能力の向上のためのセミナーについても積極的に参加する。

### <DXに向けたIT・デジタル化の取組>

#### (ア) 事業者にとって内向け(業務効率化等)の取組

RPAシステム、クラウド会計ソフト、電子マネー商取引システム等のITツール、テレワークの導入、補助金の電子申請、情報セキュリティ対策

(イ) 事業者にとって外向け（需要開拓等）の取組

ホームページ等を活用した自社PR・情報発信方法、ECサイト構築・運用、  
オンライン展示会、SNSを活用した広報、モバイルオーダーシステム等

(ウ) その他取組

オンライン経営指導の方法等

**②OJT制度の導入**

経営指導員等を浅口商工会本部と浅口商工会里庄支所に集約し、ベテラン指導員による帯同訪問や日常的指導により、小規模事業者に対する支援方法について、細かくアドバイスすることで若手職員のスキルアップに繋げ、また、経営支援だけでなく、経営カルテの記載やその他事務処理等についても指導することで、商工会全体としての経営支援レベルの底上げを図る。

**③職員間の定期ミーティングの開催**

各種支援策の内容や小規模事業者が抱える課題・問題等について、また、記帳・税務・労働をはじめとした基礎的経営支援の平準化を図るため、小規模事業者の状況を逐次報告するなど、きめ細かな伴走型支援を行うための意見交換を行う。

- ・局長・指導員ミーティングの開催（月4回）
- ・職員全体会議の開催（年4回）

**④データベース化**

担当経営指導員等が、巡回指導や個別相談等で知り得た情報を日々、「小規模事業者支援システム」に入力し、全職員がいつでも閲覧できるように情報を相互共有することで、担当者不在時においても、一定レベル以上の対応ができるようにする。

**1 1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること**

**(1) 現状と課題**

**①現状**

経営発達支援事業を円滑に進めるために岡山県商工会連合会をはじめ、各支援機関と積極的に連携を図りながら、国・県等の各種施策についての情報共有や支援ノウハウ等の情報交換を行うことで、地域が抱える課題解決に向けた取組に大いに役立てることができた。

**②課題**

各支援機関との連携によって、経営指導員等のスキルや支援能力の向上に繋げることができたため、引き続き、各種支援機関と積極的な連携を図っていく。

**(2) 事業内容**

**①岡山県商工会連合会広域サポートセンターとの連携（年8回）**

小規模事業者への迅速かつ効果的な課題解決及び経営力の向上を図るために、中小企業診断士が多く所属する岡山県商工会連合会広域サポートセンターと連携し、専門家派遣や個別相談会を実施する。  
また、岡山県商工会連合会が主催する各種研修会、セミナー等へ積極的に参加し、そこで得た支援ノウハウ等を全指導員・職員等が共有することで、幅広く対応できる支援能力を養う。

## ②岡山よろず支援拠点との連携（年１２回）

創業や新たな事業展開、経営上の諸問題などを解決するため、岡山よろず支援拠点と連携し、よろず支援拠点出張相談所を開設する。

また、支援ノウハウ等について情報を共有することで、今後の経営支援に有効活用していく。

## ③日本政策金融公庫倉敷支店との情報交換会参加（年２回）

日本政策金融公庫倉敷支店の情報交換会に出席し、各種金融支援メニューや支援ノウハウ、近隣商工会の現状等について、情報交換を行う。

## ④行政・金融連絡機関との連携支援会議（年１回）

浅口市・里庄町が開催する行政と金融機関との連携支援会議において、浅口管内の創業支援の状況や各金融機関の金融貸付状況等について情報交換を行う。

### 【連携機関】

浅口市、里庄町、日本政策金融公庫倉敷支店

中国銀行（鴨方支店、金光支店、寄島支店、里庄支店）

玉島信用金庫（鴨方支店、金光支店）、笠岡信用組合（鴨方支店、寄島支店、里庄支店）

## 12. 地域経済の活性化に資する取組に関すること

### （１）現状と課題

#### ①現状

あさくちブランド「浅口の幸」については、今年で、14年目を迎える。あさくちブランド認定委員会を設置し、ブランド認定とブランド品の販路拡大を目指して運営を行っているが、認定基準が厳しいこともあり、ブランド認定品数がここ数年伸び悩んでいる。

#### ②課題

ブランド認定品数を増加させるためには、地域の特産品や観光土産物などの新たな開発・発掘など、行政や各関係団体と連携強化を図りながら、新たな地域観光資源の発掘を行う必要がある。

地域活性化についても、「鴨方町手延べ麺まつり」や「夏まつり里庄」など、一過性（にぎわい創出）のものが多いため、今後は、地域住民や行政と協議を重ねながら、商工会としての関わり方について、協議し、地域活性化に繋がるイベントに注力して行く必要がある。

### （２）事業内容

#### ①あさくちブランド認知度向上

浅口管内の地域資源の認知度向上を図るため、あさくちブランド認定委員会を開催し、「あさくちブランド『浅口の幸』」のブランド認定を行うほか、ブランド認定に至らない商品のブラッシュアップや新たな観光資源を活用した地域資源の発掘を行う。

また、県内外の百貨店の協力のもと開催する「あさくちフェア」と連携し、新たな販路開拓による売上拡大によって、あさくちブランドの認知度向上を図る。

## ※あさくちブランド認定委員会（年１回）

### 【構成メンバー】

岡山県農業開発研究所、寄島町漁業協同組合、浅口市、里庄町

地元消費者団体、地元生産者、ブランド認定事業者、岡山県商工会連合会、商工会役員

コーディネーターとして中小企業119登録の専門家

## ②行政首長との懇談会の開催（年1回）

浅口市長、里庄町長、商工会役員による行政首長との懇談会を開催し、浅口地域内の地域産業の活性化や街づくりなどについての情報交換を行う。

また、情報交換の結果をもとに、行政及び地域の関係団体と連携を図りながら、地域活性化に資する事業を実施する。

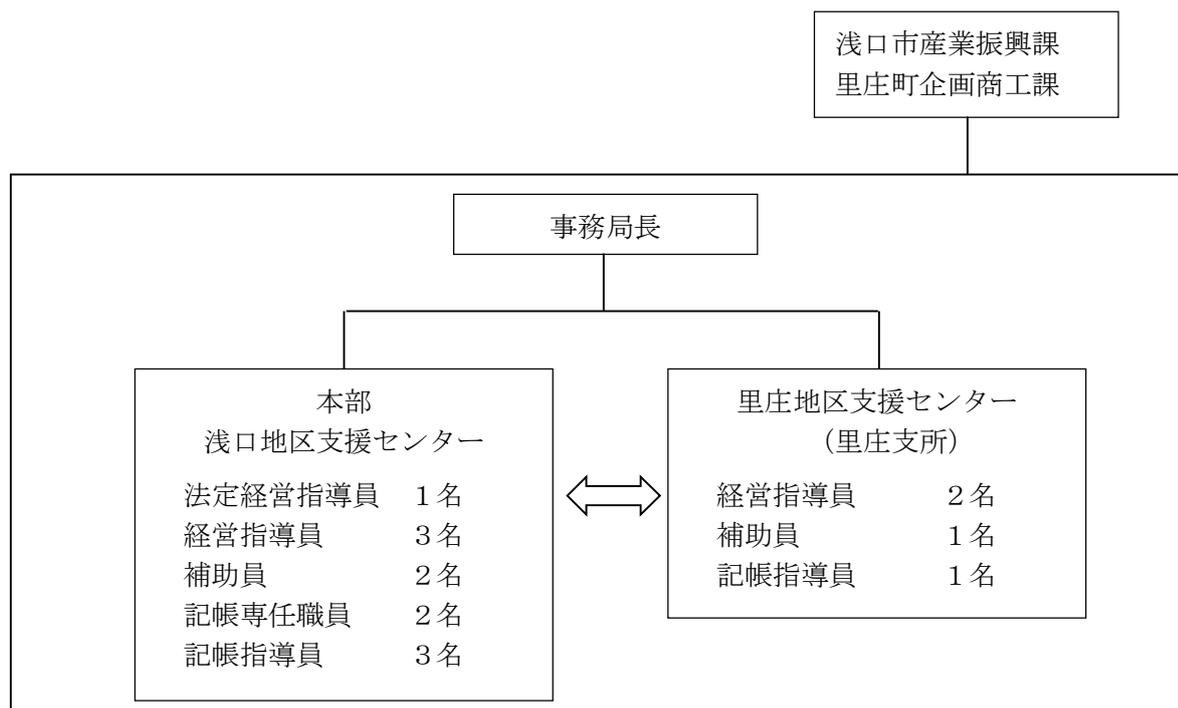
(別表2)

経営発達支援事業の実施体制

経営発達支援事業の実施体制

(令和5年6月現在)

(1) 実施体制(商工会又は商工会議所の経営発達支援事業実施に係る体制/関係市町村の経営発達支援事業実施に係る体制/商工会又は商工会議所と関係市町村の共同体制/経営指導員の関与体制等)



(2) 商工会及び商工会議所による小規模事業者の支援に関する法律第7条第5項に規定する経営指導員による情報の提供及び助言に係る実施体制

①法定経営指導員の氏名、連絡先

■氏名: 佐藤 敏幸

■連絡先: 浅口商工会 TEL: 0865-44-3211

②法定経営指導員による情報の提供及び助言(手段、頻度等)

経営発達支援事業の実施・実施に係る指導及び助言、目標達成に向けた進捗管理、事業の評価・見直しをする際の必要な情報の提供等を行う。

(3) 商工会/商工会議所、関係市町村連絡先

①商工会/商工会議所

〒719-0243

岡山県浅口市鴨方町鴨方 2244-8

浅口商工会 支援課

TEL: 0865-44-3211 / FAX: 0865-44-3212

E-MAIL: asakuchi@okasci.or.jp

②関係市町村

〒719-0295

岡山県浅口市鴨方町六条院中 3050

浅口市役所 産業振興課

TEL : 0865-44-9035 / FAX : 0865-44-9477

〒719-0398

岡山県浅口郡里庄町里見 1107-2

里庄町役場 企画商工課

TEL : 0865-64-3114 / FAX : 0865-64-3126

(別表3)

経営発達支援事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法

(単位 千円)

	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度
必要な資金の額					
小規模企業対策事業費	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
販路拡大事業費	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300
地域活性化事業費	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
経済動向調査費					
職員資質向上研修費	100	100	100	100	100

(備考) 必要な資金の額については、見込み額を記載すること。

調達方法
会費収入、特別賦課金(事業参加負担金等)、国補助金、岡山県補助金、浅口市補助金、里庄町補助金 等

(備考) 調達方法については、想定される調達方法を記載すること